



# Pre「医療専攻」たより

新潟県立小出高等学校 Vol.1 令和2年9月30日

9月18日（金）に、延期となっていた1年生を対象とした「医療講演会①」を実施しました。本校「医療専攻」アドバイザーである小出病院院長 布施 克也 様を講師にお迎えし、「医療を仕事にする」という演題で御講演いただきました。

講演の中で、それぞれの医療の専門職が連携、協力しあって一人の患者さんのLifeを支えているということをわかりやすくお話していただきました。また、小出病院に実際に勤務されている医療従事者の方の写真や、それぞれの専門職の仕事内容から、生徒たちは身近な小出病院にこんなにも多種多様な医療のスペシャリストたちが働いていらっしゃるということを実感していました。

また、「医療従事者に向いている資質」についても触れていただき、医療専攻を選択する生徒はこれから学習によってその資質を高めていこうと意欲を燃やしておりました。

1年生にとっては初めてとなる「医療講演会」でした。将来、医療現場で人の役に立ちたいと考えている生徒や、なりたい医療職が決まっている生徒は、ぜひ今後も医療専攻で学習を深めていってほしいです。



## 生徒の質問

・医療の現場で大切なことは何ですか。

—「患者さんのため」という気持ちと「チームのみんなと同じ目標を共有」して仲間と一緒に動くこと。同時に、「自分の専門を発揮すること」も大切。

・患者さんに寄り添うときに一番大切にしていることは何ですか。

—「ケア」をする、ということ。「ケア」とは、患者さんが自分の力で生きることができるように支えること。「寄り添う」というのは、そばにいるだけではない。

・医療従事者に必要な心構えはどのようなことですか。

—「利他」の気持ち。「患者さんを助けるため」「他人のため」という気持ちを持つことが大事。それは、自分以外の存在に敬意を持つこと。



・現在のような新型コロナウイルスのパンデミックのようなどきに、地域でどのように協力していけばいいか。

—魚沼地区では、プライマリケアを行う小出病院や高度医療を行う魚沼基幹病院など、魚沼全体で役割分担をしている。大きく変化する社会に問題意識を持ち続けてもらいたい。

## 生徒の感想

・今回の講演会で、まだ知らない医療職があるということを改めて知ることができました。「患者」という言葉は、弱い人、心が串刺しにされている人、と聞いて、なるほどな、と納得しました。私の将来の夢は看護師です。どんな患者さんも弱っているということを忘れずに、身体のケアだけでなく、心のケアもできる、患者さんから安心してもらえ、頼ってもらえるような看護師になれるように頑張りたいと思います。小出高校には医療専攻があるので、そこで医療について関心を深め、良い看護師になるためにたくさん学びたいです。今はコロナウイルスが流行していて、世界的な問題となっていますが今、第一線で頑張ってくださっている医療従事者の方に感謝をしていきたいと思います。今回の講演を聞いて、さらに看護師になりたいという気持ちが大きくなりました。「Life」という言葉を頭に入れて、誰かの役に立てるような人になれるように頑張っていこうと思います。



・今回の医療講演会を聞き、感じるものが多かったです。私たちの気付かないところで様々な人が働き、一人一人が支え合いながら医療現場が成り立っていることを知りました。

また、医療に携わる人が減っている現状をどう改善していくのかを考えさせてくれるとても良い機会となりました。人々が自分や他人の健康を考えてそれを実行することによって未来をより良いものにしていきたいと思います。また、様々な分野に焦点を当てて広い考えを持ち少しでも地域に貢献できるようにと考えました。



・私は、このコロナウイルスが広がる社会で医療に関わる人たちは苦労が多く大変そうだな、と思っていました。私は今回の講演を聞いて、医療に関わり働く人たちはやりがいにあふれていると思いました。スライドで紹介された若い先生方は、様々な人の「Life」を守るために、やる気にあふれていて、紹介文には必ず「やりがいのある仕事です」と書いてありました。自分たちの専門知識・技術を生かして患者さんを守る。そのことにやりがいを感じているのだと思います。大変なことがあったとしても、その仕事に「やりがい」を感じることで仕事を楽しむことができる。私はその姿にとてもあこがれています。いつか、今働いている先輩方のように、自分の力を生かせるやりがいのある仕事に就きたいと思いました。

